

画像データベース「球陽諸本集成」の作成

岩崎 宏之：筑波大学歴史人類・学系

「球陽」は琉球の正史の一つであり、昔から多くの人に読まれてきた史料と云えるであろう。本領域研究でも、「球陽」本文のテキスト・データベース化を求める声が少なくなかったが、入力作業を行なう労力に余裕がなく、果たせなかった。その代わりに、計画研究「琉球・沖縄の歴史的文物の情報化」(研究代表者:岩崎宏之)の研究班では数種類の「球陽」本文の画像情報の作成を進め、これを CD-ROM 版による画像データベース「球陽諸本集成」とすることを考えた。現在までに集めた「球陽」のテキストは、以下の*種である。なお沖縄県立図書館所蔵東恩納文庫の東恩納寛惇旧蔵本についてもすでにマイクロフィルムを入手しているが、未だデジタル化はしていない。また近年その所在が確認された南方熊楠文庫の写本は元沖縄県立図書館本とみられる。これらの資料は、まず 16 mm マイクロフィルムによって写真撮影し、さらにこれを外注(日本マイクロ株式会社、現社名:株式会社ニチマイに発注)によって TIF 形式の画像データに変換し、CD-ROM に格納した。収録した「球陽」の諸本ならびにそのデジタル処理されたデータ量は下記の通りである。

(1)内閣文庫所蔵「球陽」13冊本

架蔵番号は 178-381 の本資料は外務省による明治 18 年の写本で、13 冊に分冊されている。用箋は茶色の罫紙で、柱に「外務省」とある。分冊は(1)巻一~五、(2)六~八、(3)九~十一、(4)十二~十三、(5)十四~十五、(6)十六~十七、(7)十八~十九、(8)二十、(9)廿、(10)廿一~廿二、(11)廿三~廿四、(12)附録、(13)外編一~三、遺老説伝で、なお第 13 冊の末尾に跋文があり、ここには「此書ハ琉球クニ與那原親方ノ蔵書ナリシヨ明治十八年栗太萬次郎同国ヨリ取寄タルヲ借用シテ写ス 十八年八月外務省記録局」と記されている。TIF 形式のファイルで 924 齣、データ量は 117.0MB、これを 26 フォルダ(01~26)に格納してある。

(2)内閣文庫所蔵「球陽」12冊本

国立公文書館内閣文庫所蔵で架蔵番号:178-398、明治初年の外務省による写本で「外務省記録局」の印がある。24 巻附 3 巻で、12 冊の巻別構成は(1)巻一~二、(2)三~五、(3)六~八、(4)九~十一、(5)十二~十三、(6)十四~十五、(7)十六~十七、(8)十八~十九、(9)二十、(10)二十一~二十二、(11)二十三~二十四、(12)附巻巻一~三。TIF 形式のファイルで、960 齣、データ量は 83.1MB、これを 25 フォルダ(01~25)に格納した。

(3)新垣義夫氏所蔵「球陽」

伊波普猷の旧蔵になる写本で、8冊本。全体で1007齣、データ量は200.0MB。新垣本球陽は、TIF版のほかにHTML版も作成した。

(4) 筑波大学附属図書館所蔵「球陽」

美濃版、毛筆による写本で二十二巻・附巻三冊からなる。架蔵番号はヨ360-29で、高等師範学校図書印ならびに「明治三十二年五月十六日伊沢雅楽ヨリ購求」との受け入れ事情を示す判が捺されている。巻の編成は四・五、八・九、一七・一八巻がそれぞれ1冊になっており、あとは各巻が1冊となっている。

(5) 宮里栄輝校訂『球陽』(昭和4年10月、発行人：親泊政博、孔版、全3冊、977p)。宮里栄輝校訂本として広く流布している最初の公刊本で、謄写版印刷された。筑波大学附属図書館所蔵本を撮影した。上編は巻之一から巻之十、1~301ページまでで、巻首に真境名安興「沖繩の修史と球陽の編纂について」が置かれている。中編は巻の十一から巻之十九まで、305~634ページ、下編は巻二十以降で635~977ページが収められている。